

自己評価報告書

平成23年5月20日現在

機関番号：24302

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520588

研究課題名(和文) 北丹後震災を事例とする近代災害史研究の構築

研究課題名(英文) Construction of modern disaster history research with which case is the north Tango earthquake

研究代表者

小林 啓治 (KOBAYASHI HIROHARU)

京都府立大学・文学部・准教授

研究者番号：60221975

研究分野：日本近代史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：災害史・北丹後震災

1. 研究計画の概要

(1)被災地の町村の史料の収集を行い、重要史料をリストアップし、写真撮影・件名目録を作成する。

(2)上記の件名目録にもとづき、重要史料の内容を検討し、厳選した上で翻刻する。

(3)京都府行政文書の中から北丹後震災関係文書をリストアップし、被災地史料とつきあわせて重要史料の翻刻を行う。

(4)行政の対応、被災地での救護・復興のあり方について、北但震災など、北丹後震災の前後に起こった震災との比較を行う。

2. 研究の進捗状況

研究計画(1)については、丹波村・木津村・峰山町などの町村役場文書を中心に調査を進めた。その結果、丹波村・木津村の震災関係簿冊が、被災地の状況を知る上でまとまった史料として活用できることが確認できた。これらについては、現地で写真撮影を行い、同時に件名目録の作成に取り組んだ。また、個人所有の文書も調査したが、すでに出版されているもの以外にはめぼしいものは発見できなかった。聞き取り調査もおこなったが、すでに出版されている回想記以上に記録すべき証言は得られなかった。

研究計画(2)については、上記で件名目録を作成した文書を中心に重要史料の選別を行い、翻刻作業を進めている。現在8割程度は完成しており、見直し作業と並行して残りの翻刻に着手している。

研究計画(3)については、まず京都府総合資料館の簿冊目録によって震災関係簿冊を調査した。その中から京都府の対応を日ごとに記録した「震災情報」がもっとも有用であることがわかり、件名目録を作成した。被災地

史料とつきあわせて、両者の相互関係を検証した。震災1週間の史料は被災地にはほとんど残存せず、「震災情報」の史料としての重要性が明確となったので、選別して翻刻を進めている。

研究計画(4)については、主として北但震災を中心に新聞や編纂物を調査した。それ以外の震災や京都府の水害などについても、現在調査を進めている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

予定していた史料収集を手早く行い、残存史料の中でまとまった記述のあるものを発見することができた。件名目録や写真撮影も順調に進み、最終段階の翻刻作業に入っている。

4. 今後の研究の推進方策

(1)翻刻作業については、残りの期間を有効に使って早めに完了する。

(2)各史料のつきあわせが不十分なところが残されているので、被災地の史料相互間あるいは被災地の史料と京都府行政文書の関係性について検証を進める。

(3)他の震災や、京都府における他の災害についても、収集した史料をもとに比較・検討する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

小林啓治、北丹後震災における京都府・陸海軍・諸団体の救護・救援活動に関する一考察、

京都府立大学学術報告・人文、査読有、第 61
号、2009 年、pp. 35-65
〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 1 件）

京丹後市史編さん委員会編（執筆者：小林啓
治）、京丹後市発行、京丹後市史資料編・丹
後震災救護史料集、2011 年、351 頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕